

# 立田・八開地区の人口減少問題、対策を

吉川 三津子議員

プロジェクトチーム立ち上げを検討する

市長



▲愛知県指定の人口激減自治体

**問** 市内の8駅の内、勝幡・藤浪・佐屋・富吉の4駅を、開発優先地域として市は指定した。

一方、旧立田・八開村が人口激減地域として、県の「市町村人口問題検討対策会議」メンバーの指定を受けた（左図）。

旧村内の集落によっては、約4割が高齢者のみ世帯等の「空き家予備軍」となっており、まったなしの状況だ。

**問** 当市の水道メータを使った空き家調査とは。

**答** 空き家の可能性が高い建物を抽出する。

**問** 市は、相変わらず危険な空き家対策にとどまっているのではないか。空き家予備軍も含めた調査計画を立てねば、集落が消失する。市の考えは。

**答** 空き家が発生する前段階での対策を考えていく。

**問** 県検討会議のメンバーに含まれたことは、一つのチャンスと捉え、空き家対策チーム等をつくらせて県との交渉に取り組み、立田・八開地区の人口問題にも取り組む考えは。

**答** 大きな今後の課題だ。プロジェクトチームの立ち上げなど検討する。

**問** 立田・八開の人口分析によると、0～14歳の子連れ世帯は転入してきており、名古屋市のベッドタウン的な役割を果たしている。しかし、こうして増えた子どもは、20歳～34歳で就職や結婚、進学のため転出していき。子育て世代の転入には、良い教育も必要だが、市長の考えは。

**答** 立田・八開地区は、全都市街化調整区域だ。空き家予備軍も増えているので、状況をつかみ分析していくことが重要だ。

**問** 国は「熱中症特別警戒アラート」のしくみをつくった。市としての新たな取り組みは。

**答** 市内公共施設を「クーリングシェルター」として指定する準備をしている。

**問** 教育委員会として、子どもの暑さ対策は。

**答** リュック等での通学、日傘、冷却グッズの利用を認めている。持参の水分が不足した場合は、職員室の保存水を水筒に補充している。

子ども・高齢者の猛暑対策を